

新刊案内



2017年5月下旬発売

ノーベル文学賞候補に何度も挙げられた詩人の
生涯と作品を分かりやすく読み解く画期的な書 !!

エコーする 〈知〉

詩人 西脇順三郎 その生涯と作品

- 加藤孝男（東海学園大学教授）・太田昌孝（名古屋短期大学教授）
- 体裁：A5判・並製 170頁 【CPCリブレ No.7】
- 定価：1,944円（本体1,800円＋税）ISBN978-4-908823-16-9 C0095

西脇順三郎生誕120周年に因んで『新潟日報』に掲載されて大反響を呼んだ記事（留学先のロンドンや郷里の小千谷を訪ねた交換・照応記事）をまとめ、新たに代表的な詩10篇を分かりやすく解説。読みやすい大きな活字と豊富な写真はビジュアル的に詩人西脇順三郎の生涯と作品をさらに味わい深いものになっている。幻影の詩人が闊歩する。いま、西脇詩を読まずして現代詩は語れない。



【英国留学中の写真】

【目次】はじめに 第1章 西脇順三郎の魂にふれる旅—少年、青年時代の西脇（故郷・小千谷にて）—
第2章 西脇順三郎の魂にふれる旅—英国の留学時代の西脇—第3章 西脇順三郎の魂にふれる旅
東京、小千谷を歩く旅人— 第4章 西脇順三郎の詩の魅力をあじわう 西脇順三郎 略年譜 あとがき

【本書からの抜粋】

はじめに 西脇順三郎は難解な詩人だと思われてきた。しかし、次の詩はどうだろう。
天気（覆された宝石）のような朝 / 何人か戸口に誰かとささやく / 神の生誕の日。この詩のなかにある比喩を難解だなどという人はいないであろう。宝石箱がくつがえされて、飛び散った宝石がきらきらと輝いている朝を連想すればいい。それは感覚でしか捉えられないもので、それが詩なのである。むしろ、「神の生誕の日」が、いつ、どこでの話なのかということを考えていくと、この詩が収録された『Ambarvalia』（アムバルワリア）という詩集についても知らなければならぬ。しかし、この本ではそうした読者の疑問に答えられるように、西脇順三郎という人物の経歴や詩に対する考え方などを分かりやすく解説している。西脇を語るとき、この分かりやすさこそが重要である。（加藤孝男）
あとがき 「新潟日報」に1年半連載した「聖地をたずねて」を1冊にまとめ、加藤氏と共に上梓することになった。ロンドンと小千谷に身を置いた我々の眼や耳が、西脇の放つポエジーに操られながら実はあるひとつの定点を見据えていたことに気づいていただければ幸福の上ない。（太田昌孝）

- 好評既刊 澤 正宏（福島大学名誉教授）著『21世紀の西脇順三郎 今語り継ぐ詩的冒険』本体1,200円 ISBN978-4-905308-01-3

クロスカルチャー出版 〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-7-6 電話 03-5577-6707 ファクス 03-5577-6708

書店印	発行：クロスカルチャー出版 TEL：03-5577-6707 FAX：03-5577-6708	
	詩人 西脇順三郎 その生涯と作品 ■定価：1,944円（本体1,800円＋税） ISBN978-4-908823-16-9 C0095	
ご担当者（ ）	冊	お名前
	ご住所	電話